



小將町中学校

所在地：金沢市小將町1-15

電話：076-262-6272

F A X：076-262-6273

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/koshoumachi-j/>

校長名：寺井 雅樹

学年	1年	2年	3年	特別支援学級	合計
生徒数	84	92	75	23	274
学級数	3	3	2	4	12

	校長	教頭	教諭等					養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	特学	他					
職員数	1	2	5	5	4	6	0	1	1	1	1	27

(分校含む)

1 平成22年度学力向上の取組内容の検証

本校では、学力向上のために、「①基礎・基本の定着」、「②授業改善」、「③教材の開発」の3つの視点を、全教科共通の課題として全教員が取り組んでいます。特に授業改善には力をいれており、「表現力（伝える力、聞き取る力）の向上に力をいれ、教員各人が授業改善の課題を設定し、その達成にむけて授業改善に取り組んでいます。

9月は道徳には道徳に研究授業を行い、講師を招いて検討会を持ちました。また10月には本校（数学）、分校（各教科）のに研究授業（要請訪問）を行い、その授業に対する助言や生徒による授業評価を参考にしながら、授業改善の検討をすすめました。

8月、1月の研修会では各教科の取組状況を報告し、全教職員で取り組みの進捗状況を共通理解ができました。

平成23年4月に実施した県学力調査の結果では、社会、理科、英語いずれも県平均を上回る結果でした。しかしながら、正答率が低い分野や単元などもあり、授業や学習指導の改善が必要であると考えています。

生徒の授業評価（H22年12月実施）においては「授業がわかりやすい」という項目において、89%が「とてもわかりやすい」「わかりやすい」と解答しています。しかしながら、家庭学習は2時間以下という生徒が全体の6割を越えており、家庭学習の習慣化が課題となっています。

2 H23年度の学力等の現状分析

(1) 全体の傾向

多くの生徒が落ち着いて授業に取り組んでいます。3年生はどの教科においても基礎基本が身につけており、意欲的授業に取り組んでいます。2年生は積極的に授業に取り組む生徒がいる反面、基礎基本の力が不足している生徒も若干見受けられます。1年生にも基礎学力の不足する生徒が見受けられ、1、2年共に基礎基本の定着が課題となっています。また、昨年同様家庭学習への取り組みが十分でない生徒も少なくないことも課題となっています。

(2) 教科ごとの分析

ア 国語科

3年生は、基本的な事項が概ね身につけており、どの観点（関心意欲態度・話すこと聞くこと・書くこと・読むこと・言語についての知識理解技能）においても力がついてきている。しかし、文法など苦手とするものもあり、それらを克服するために反復練習などの対策をとっていく必要がある。

1・2年生の中には、基礎基本があまり定着していない生徒もあり、個別に対応していく必要がある。

自分の考えを相手に伝える力が向上してきている。

自分の考えと他者との考えを合わせて、思考の深化を図る場面が必要である。

イ 社会科

どの観点（社会的事象への関心意欲態度・社会的な思考判断・資料活用の技能表現・社会的な事象への知識理解）においても概ね力がついてきているが、さらに基礎基本の定着を図る必要がある。課題を見つけ出す

力や表現する力を養うための発表の機会を設定し、発展的な学習にも力を入れていく必要がある。

特に1年生では、地図を有効に活用し、読図力、作用力等の地理的機能の育成、2年生では、資料を選択して有効の活用し、歴史的事象を様々な角度から考えさせることに

力を入れていく必要がある。

ウ 数学科

学習に対し意欲的に取り組もうとする姿勢がみられ、どの観点(数学への関心意欲態度・数学的な見方や考え方・数学的な表現処理・数量図形などに関する知識理解)においても概ね力がついている。

文章をよく読み、的確に処理する力もついているが、自分の考えを文章に表現したり、数量関係を表す力や図形についての空間認識はもっと伸ばしていく必要がある。

また、1・2年生では基本的な計算力の定着も課題である。

エ 理科

基本的な学力は身につけているが、ワーク、プリント、小テスト等での学力の定着を確実にしていく必要がある。

特に、1年生では密度や圧力、2年生では電流や化学変化時の質量、3年生では運動やエネルギーなど計算問題や1年生の光や力の作図など理解が難しい課題については、くり返して指導を行うことが必要である。

オ 英語科

3年生は4つの領域(聞く・話す・読む・書く)においてはほぼ平均的に力がついているが読み取りの練習や、英作文の練習には力を入れていく必要がある。1・2年生は基礎学力の不足している生徒もいるので、基礎基本のさらなる定着を図るために、授業のまとめの時間の復習に力を入れたい。

3 H23年度の学力向上の取組

(1) 学力向上に向けての3つの視点

本校は研究主題「自ら学び創造する意欲をもった生徒の育成」として研究を進めており、副題を「確かな学力と生きる力の育成をめざして」とし、生徒一人ひとりの学力の向上に努めています。生徒は落ち着いた雰囲気の中で意欲的に学習していますが、集中力や家庭学習の定着、基礎学力の定着に課題のある生徒もいます。今年度も活用力、思考力を含めた学力の向上に努めており、確かな学力の定着にむけて「①基礎・基本の定着」(学習態度、学習習慣、学習方法)、「②授業改善」(学習課題、学習形態、板書、表現の場の工夫)、「③地域を生かした教材の開発」の3つの視点で取り組んでいます。特に、②「授業改善」の重点として、「表現力(伝える力、聞き取る力)の向上」に取り組んでいます。

(2) 教科ごとの重点項目

ア 国語科

学年に応じて、目的や場面、相手に応じて必要な情報を聞きとり、また、自分の考えを筋道の通った内容にまとめ表現する機会を増やす。

イ 社会科

1年生では、毎時間授業の始めに前時の振り返りの小テストを実施し、基本的な知識の定着を図る。2年の歴史分野では、単元終了時ごとにノートのとまとめを行う。3年生では地域を題材とした授業を実施する。

ウ 数学科

1・2年生では基本的な計算力の定着に力を入れ、同じ問題にくり返し取り組みせ、自分の学習の成長が個々に見えるように工夫する。3年生では、文章問題の表現や解法に慣れるように、授業において例題に取り組むことを増やすとともに家庭学習課題を工夫する。

エ 理科

電子黒板など、視聴覚機器を有効に活用する。また、学力調査各種テストの分析から理解が十分でないと思われる内容(例:化学式や各種計算)の指導の充実をはかる。

オ 英語科

各学年の生徒の実態に合わせたワークシートでを作成し、基礎基本の定着を図る。また、生徒の関心のある内容を題材にして、短時間でできるQ&Aをくり返して行い、自己表現力の向上をはかる。

4 その他の取組

表現力育成のため、総合学習の時間の学習のまとめとして、国語・英語・理科・社会科の学習内容を利用して、3年生全員が、「小論文」、「英語スピーチ」、「理科のプレゼンテーション発表」、「新聞記事のポスターセッション」の4つの課題に取り組み発表会を行います。(11月25日(金)5,6限)